

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科	
科目名称	知的障害児の心理と発達支援					授業形態	授業形態	講義	
科目コード	750137	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	本田 和也							ICT活 用	
授業概要	知的障害の状態・特性を踏まえ、知的障害児の認知発達について概説する。その上で、授業における知的障害児への適切な指導・支援の在り方について、具体的な事例を通して検討し理解を深める。								
関連する科目	履修前に「知的障害児の心理・生理・病理」を履修しておくことが望ましい。								
授業の進め方 と方法	基本的に講義を中心とし、パワーポイントや動画など多様な手段を用いて展開する。 また、学びをさらに深めるために、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う経験を通して、深化を図る。								
授業計画 【第1回】	知的障害と自立 事例を通じた知的障害の定義と特性の理解及び知的障害児・者の自立								
授業計画 【第2回】	知的障害の捉え方 ICIDHからICFへの知的障害に対する捉え方の変遷の理解								
授業計画 【第3回】	自立活動を踏まえた知的障害児の心理的特性とその支援 自立活動の意義及び知的障害児の心理的特性を踏まえた自立活動の在り方								
授業計画 【第4回】	知的障害児の認知発達について 人の発達の特徴を踏まえた感覚と運動の関係性による知的障害児の理解								
授業計画 【第5回】	初期感覚の世界の理解 知的障害児の感覚と運動の困難性の理解及び発達課題を見取りと適切な指導の在り方								
授業計画 【第6回】	知覚の世界の発達理解と支援 知的障害児の視覚・聴覚の高まり及び運動調整力が育つ適切な指導の在り方								
授業計画 【第7回】	象徴化の世界の発達理解と支援 知的障害児の表象獲得段階における適切な指導の在り方								
授業計画 【第8回】	概念化の世界の発達理解と支援 知的障害児の「細部・全体知覚」「記号操作をする力」「ことばによる柔軟な思考・判断力」が育つ過程における指導の在り方								
授業計画 【第9回】	コミュニケーションの基礎となる認知① 知的障害児の発達過程での驚愕から注意、期待へと発達するための適切な指導の在り方								
授業計画 【第10回】	コミュニケーションの基礎となる認知② 知的障害児の期待反応の分化から要求やYES・NOの意思表示へと導く適切な指導の在り方								

授業計画【第11回】	コミュニケーションを促す指導 言語と心の発達を促すインリアル・アプローチの技法の理解及び知的障害児とのやりとりの理論的背景や支援の在り方
授業計画【第12回】	三項関係形成段階での課題と支援 知的障害児の発達を促す要因理解及び知的障害児の二項関係から三項関係へと導く支援の在り方
授業計画【第13回】	二項関係から三項関係に導く指導① ASD児の感覚過敏の要因と共同注意の視点からの適切な支援の在り方
授業計画【第14回】	二項関係から三項関係に導く指導② 言語獲得や感覚過敏軽減の基盤となる共同注意成立の重要性の理解及び協働的な学びのための環境の構造化の在り方
授業計画【第15回】	知的障害児の指導の実際 知的障害児の指導における各教科や自立活動の内容理解及び知的障害児の発達・特性に合わせた指導内容の選定・実施・評価の在り方
授業の到達目標	知的障害の心理・生理・病理について概観した上で、特に心理面に焦点を当て、発達・特性を踏まえた指導・支援について理解することを目的に、以下の3点を到達目標として設定する。 1. 知的障害児の認知発達及び指導・支援について、感覚と運動の関係性から理解している。 2. コミュニケーションの基礎となる認知発達を理解した上で、知的障害児の状態・特性に合わせた指導・支援の在り方について理解している。 3. 知的障害児の状態・特性を踏まえ指導効果を高めるための学習環境整備、ICT活用、教材・教具の活用について理解している。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	授業の中で、次回の授業内容・課題などを提示するので、各自で確認したり、調べたりしておく(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	テキストや配布したプリント等を基に、習得した内容を整理したり、関連する資料・図書・文献等でさらに深めたりしておく(1時間程度)
課題に対するフィードバック	毎回の授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等は、次時の授業時間に解説を行う。
評価方法・基準	通常の授業に臨む態度と授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等の内容(20%)、及び最終試験(80%)で総合的に評価する。
テキスト	文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)』開隆堂(159円+税) なお、必要に応じてプリントを配布する
参考書	梅谷忠勇著(2004)『図解知的障害児の認知と学習-特性理解と援助-』田研出版(2,000円+税) 宇佐川浩著(2007)『障害児の発達臨床Ⅰ感覚と運動の高次化からみた子ども理解』学苑社(2,800円+税) 竹田契一・里見恵子編(1994)『子どもとの豊かなコミュニケーションを築くインリアル・アプローチ』新日本印刷(2,300円+税)
備考	